

O022-P23

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

## 室戸ジオパークを610倍楽しむ方法-第11回地震火山子どもサマースクール- How to Enjoy Muroto Geopark 610 Times More! -The 11th Children's Summer School on Earthquakes and Volcanoes-

柴田 伊廣<sup>1\*</sup>, 田中 圭一<sup>1</sup>, 中川 和之<sup>2</sup>, 岡田 哲也<sup>1</sup>

Tadahiro Shibata<sup>1\*</sup>, Tanaka Keiichi<sup>1</sup>, Nakagawa Kazuyuki<sup>2</sup>, Okada Tetsuya<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 室戸ジオパーク推進協議会, <sup>2</sup> 地震火山子どもサマースクール実行委員会

<sup>1</sup>Muroto Geopark Committee, <sup>2</sup>Working group for Schoolchildren's summer

### 1. はじめに

現在、ジオパークを通じて地域の発展と災害の正しい知識を得ることを目的に活動を続けている室戸市を舞台に第11回地震火山子どもサマースクールが開催された。室戸ジオパークは「海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線」であり、大地の形成の証拠が室戸市の地形や地質に数多く残されている。子ども達は、「室戸ジオパークを610倍楽しむ方法」をテーマに6つのチームに分かれて、実験や野外観察を行った。そして、「海と陸が出会っている場所はどうなっているの?」「室戸の土地は、どこから来て、どこへ行くの?」「室戸でどう遊び、どう暮らす?」という疑問について考えた。本発表では、活動内容とジオパーク活動への影響について報告する。

### 2. サマースクールの内容

普段見慣れている景色と比較して、室戸の地質・地形的な特徴を見つけることから謎解きは始まった。室戸岬スカイライン展望台からは、海成段丘と太平洋を望むことができる。また、海岸では離水地形や付加体を目で見て触れることができる。研究者からの「この景色の中で、地震が起こる場所はどこ?」などの質問に答えながら、子ども達は地形的特徴を見つける一方で数多くの疑問を持つことになった。

続いて会場を室内に移して、小麦粉とココアで付加体をつくる実験や水槽で津波実験などを行った。子ども達は、野外で見つけた疑問を実験やその後の説明などによって理解した。さらに、多くの第一線の研究者との話を通じてジオパークの楽しみ方を少しずつ知りはじめた。

最後のプログラムでは、子ども達が二日間に渡って、研究者と一緒に屋内外で実験やクイズに参加し、発見できたことやアイデアを発表した。そして、参加した子ども達は、「室戸子どもジオパークアドバイザー」に就任した。

### 3. 室戸ジオパークへの活用

サマースクールは、ジオパーク活動に大きな影響を与えた。市民と科学者が一緒に科学ストーリーを作成する機運が高まり、ジオツアーの内容が充実した。また、サマースクールで子ども達と一緒に活動した市民はもちろん、報道を通じて知った方の関心が急激に増した。サマースクール以降、学校などから、ジオパークに関する出前授業や問い合わせが増えた。さらに、学校の教員も独自の手法でジオパーク学習を始めた。出前授業での学習の成果をオブジェ、絵画、劇、俳句、音楽などの創作活動へ反映させている。

このように、地震火山子どもサマースクールの内容が地域の活動に根ざした例は珍しい。今後、さらに研究者と市民がとともにジオパーク活動の発展をしていくことで、地球科学のアウトリーチに繋がるだろう。

キーワード: 室戸ジオパーク, サマースクール, アウトリーチ, 教育

Keywords: Muroto Geopark, summer school., outreach, education